

日本臨床歯科学会 東京支部

2019 年度 第2回ステップアップミーティングのご案内

～ 前回大好評の『Warm up Seminar』を開催します!! ～

寒冷の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、来る2020年2月2日（日）に開催いたします『日本臨床歯科学会 東京支部 第2回ステップアップミーティング』につきましてご連絡申し上げます。

今回のステップアップミーティングでは午前中、前回初開催し大変好評をいただいた『Warm up Seminar』を開催いたします。SJCDでは1口腔単位で症例を捉えることを大切にしているため、日常臨床において「咬合再構成」の必要性に迫られることがありますが、その際、術前の診査・診断が重要となります。全顎的な診査・診断をする際に『セファロ分析』が多く用いられておりますが、一方でセファロ分析は一般GPにおいて敬遠されがちな状況にあります。

そこで今回の『Warm up Seminar』では『一般GPのためのセファロ分析活用法』を、補綴医でありながら矯正治療も日常臨床で数多く行なっている日本臨床歯科学会東京支部理事の松尾幸一先生にご講演いただきます。

午後の本会は3名の会員の先生方に「咬合再構成」の症例を発表していただきます。「Warm up Seminar」での講演内容を基に午後の会員発表を聞いていただくとより多角的に症例を捉えることができ、充実したディスカッションが行えることと考えております。

なお、今回もステップアップミーティング終了後、懇親会を開催します。今回の懇親会では「顎関節診査についてのミニレクチャー」（詳細は別紙参照）を行なう予定です。

あわせて皆様お誘い合わせのうえご参加いただけますようお願いいたします。

日時：2020年2月2日（日） 10：00～15：45

受付開始：9：30～

（Warm up Seminar 10：00～11：30 / 本会 13：00～15：45）

懇親会 16：00～18：00

※前回より皆様が参加しやすいよう懇親会開始・終了時間が変更となっております。

場所：お茶の水ソラシティ カンファレンスセンター Hall West

（地図別紙参照）

## 【タイムテーブル】

開場・受付開始 9:30

開会 10:00

### ～ Warm up Seminar ～

10:00～11:40 松尾幸一 先生 (中野デンタルクリニック)  
「一般診療医(GP)のためのセファロ活用法」  
—セファロをシンプルに活用しよう—

休憩 11:40～13:00

※会場内の飲食は可能です。昼休憩時間にもぜひ賛助企業ブースにお立ち寄りください。

### ～ 本会 ～

13:00～13:05 会長挨拶

13:05～13:50 遠藤元気 先生 (遠藤歯科医院)  
「上下顎遊離端欠損に対して矯正治療を用いた咬合再構成」  
(座長:綿引淳一 先生)

13:50～14:35 山下貴史 先生 (山下歯科医院)  
「無歯顎患者に対するインプラント治療による咬合再構成」  
(座長:吉田茂治 先生)

賛助企業ご挨拶、休憩 14:35～15:00

15:00～15:45 中曽根潤一 先生 (なかそねデンタルクリニック牛込柳町)  
「酸蝕症を有する患者に対し、全顎的治療を行った症例」  
(座長:新藤有道 先生)

閉会 15:45

懇親会 16:00～18:00

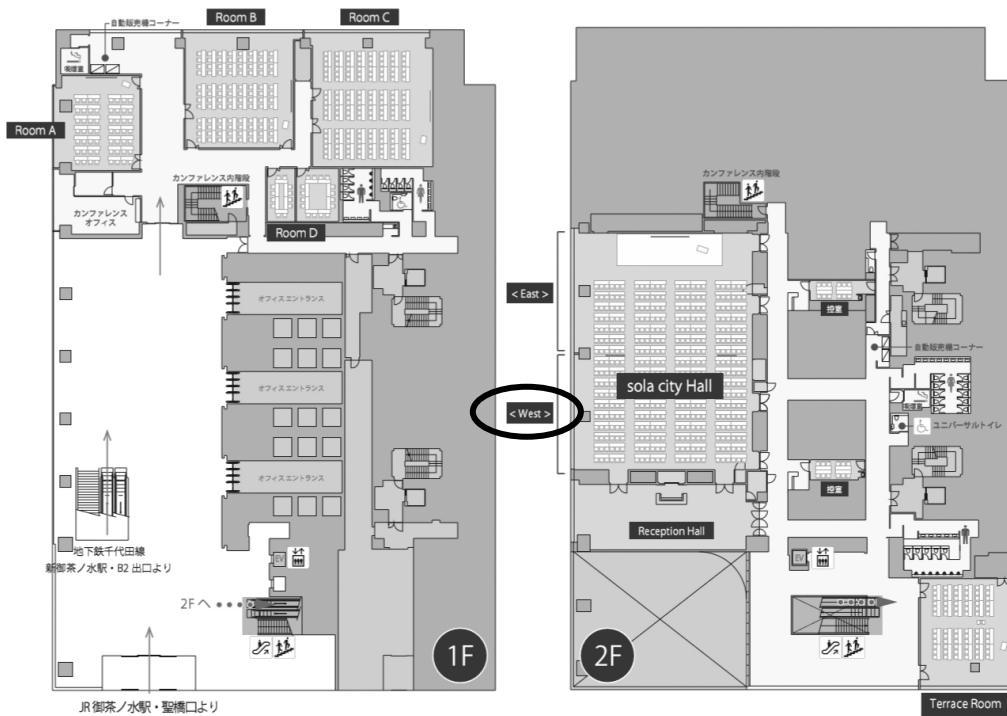
- \* 今年度より東京 SJCD のホームページ「会員ログイン」の「イベント」より事前登録をお願い致します。また、当日は QR コードでの受付となりますのでご準備ください。
- \* 東京 SJCD の会員は無料で御参加頂けます。
- \* 一般のビジターは Dr. 3 万円・Dt. 1 万 5 千円・Dh. 9 千円となります。(予約不要)
- \* 会員登録は入会された本人に限り有効です。例会・分科会等への代理参加は、同じ医院にお勤めでもお受け致しかねますのでご了承ください。
- \* 講演中の撮影はご遠慮ください。

## 会場

お茶の水ソラシティ カンファレンスセンター Hall West (<http://solacity.jp>)

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 4-6

TEL 03-6206-4855



## 交通案内

### JRをご利用の場合

- ・JR中央・総武線「御茶ノ水」駅 聖橋口より、徒歩1分

### 地下鉄をご利用の場合

- ・東京メトロ千代田線「新御茶ノ水」駅 B2出口1直結
- ・東京メトロ丸の内線「御茶ノ水」駅 出口1より、徒歩4分
- ・都営地下鉄新宿線「小川町」駅 B3出口より、徒歩6分



「一般診療医（GP）のためのセファロ活用法」  
—セファロをシンプルに活用しよう—

中野デンタルクリニック  
松尾幸一

略歴

平成7年3月 日本歯科大学歯学部卒業  
平成7年4月 歯科医師免許取得  
平成7年4月 菊地歯科医院勤務  
平成7年9月 須藤歯科医院勤務  
平成10年4月 あいはら歯科医院勤務  
平成12年9月 中野デンタルクリニック開設

所属

日本臨床歯科学会東京支部 {東京 SJCD} 会員 認定医  
日本口腔インプラント学会 会員  
日本顎咬合学会 会員

抄録

私がセファロ撮影を修復治療に用いるようになって、約10年以上が経過している。その間、セファロ撮影が診査の中に一般的に用いられてはいるものの、矯正治療の診断の一部という枠から抜け出せないばかりか、今だにセファロアレルギーの方も多いのではないかと考えている。その理由の一因は、その診査項目や使用方法が多いからに他ならない。私は補綴医であるので、修復治療に必要な部分だけをシンプルに用いている。今回は、修復治療を行うGPの先生のためのセファロのお話をしていきたい。特に疑問点が多い以下の項目に触れていきたいと考えている。

- ① 診査の（SJCDチャートを埋めていく際の）どの時点でセファロ撮影をするのか。
- ② セファロを用いてどう診断と治療に生かすのか。
- ③ 治療計画に「矯正が必要な場合」と「補綴のみ」で対応できる見極め。
- ④ セットアップって何を基準にいつ作るの？セファロとの関係性
- ⑤ 矯正専門医との連携するケースとGPでも出来る矯正の線引き
- ⑥ インプラントと矯正が必要な場合どちらが先か？

「上下顎遊離端欠損に対して矯正治療を用いた咬合再構成」

遠藤歯科医院  
遠藤 元気

略歴

2005年 神奈川歯科大学卒業 岩本町デンタルクリニック勤務  
2007年 箱崎デンタルクリニック勤務  
2010年 医療法人社団遠藤歯科医院勤務 現在に至る

所属

日本臨床歯科学会・日本口腔インプラント学会・日本顎咬合学会

抄録

複雑な治療計画や治療オプションが必要な患者様に対しては高いレベルで治療を成功させるために他科の専門医の力を借り連携することが必要である。今回矯正専門医と補綴医との連携という点では、上下顎遊離端欠損患者に矯正治療を行う場合どこにアンカーを求めるといところが難しかった。またそれとは別に補綴医、技工士、矯正医でゴールを共有するためにセットアップ模型を作成したが実際矯正治療終了後にその通りに歯牙が移動してくるのかという疑問も出た。今回は欠損部にインプラントを埋入しアンカーに用いた症例を報告し、会場の皆様と一緒に考えたいと思う。

## 「無歯顎患者に対するインプラント治療による咬合再構成」

医療法人榮貴会 山下歯科医院  
山下貴史

### 略歴

2007年 岩手医科大学歯学部卒業  
2009年 秋田大学医学部附属病院歯科口腔外科入局  
2012年 タケダ歯科 AKITA インプラントクリニック勤務  
2014年 山下歯科医院開院

### 所属

日本臨床歯科学会東京支部・秋田一水会  
日本口腔インプラント学会・日本顎咬合学会・日本歯科医療管理学会

### 抄録

今回報告する症例は、上顎全部床義歯、下顎部分床義歯の不適合、顔貌との不調和が認められた。診査の結果、長期的に安定した術後経過確立には下顎残存歯の戦略的抜歯が有効であること、上下無歯顎となるため、確定的な修復治療を行う前に既存の習慣的顎位の改善が必要であると診断し、患者から治療の同意を得た。残存歯の抜歯後、治療用義歯を用いて顎位の安定を図った。再評価でのゴシックアーチや顎関節断層撮影画像から改善を確認し、プロビジョナルデンチャーの作製へ移行した。プロビジョナルデンチャーの人工歯の位置を参考に、ガイドドサージェリーにてインプラントを埋入。プロビジョナルレストレーション装着後、顔貌との調和、顎位などの再評価を行い、最終補綴治療へ反映した。インプラント埋入前のプロビジョナルデンチャーの時点でトゥースポジションの概要を設定し、後の補綴治療のベースとしたことが今回の症例のキーポイントと考えるが、設定の方法、最終補綴設計への移行などについて皆さまからご意見、ご指導いただきたい。

## 「酸蝕症を有する患者に対し、全顎的治療を行った症例」

なかそねデンタルクリニック牛込柳町  
中曽根 潤一

### 略歴

2006年 日本歯科大学歯学部卒業  
都内、神奈川県の開業医にて勤務を経て  
2013年 鶴見大学歯学部附属病院歯科口腔内科(第二口腔外科)所属  
2014年 デンタルクリニックアレーズ銀座勤務  
2018年 なかそねデンタルクリニック牛込柳町開業

### 所属

日本臨床歯科学会・日本口腔インプラント学会

### 抄録

審美面、機能面において患者の主訴は様々ありますが、今回は、過去に嘔吐する時期があり、その事により上顎前歯部に審美的、機能的に問題を持つ患者に対し、診査診断を行った後、治療を行い、現在経過をみている症例をご提示させていただきます。  
対応方法は様々あるとは思いますが、私の行った治療に関してご意見を頂けると幸いです。